

※ 解答は、《解答欄》に書きなさい。

## ポイント

- ・ 図表などの資料を読み取る場合は、特徴的な点に注目する。
- ・ 図表などの資料の特徴的な部分が説明の中でどう表現されているか、確認しながら読み取ったり、聞き取ったりする。

林さんのクラスでは慣用的な言葉の意味の取り違えについて調べています。林さんのグループは「役不足」という言葉について、平成十四年、十八年、二十四年に実施した調査結果のグラフ（次ページ）を見ながら話し合いました。

1

林さん 役不足という言葉は、もともとは「その人の力量に比べて、役目が軽すぎる」という意味で、例えば、「副部長では杉田君には役不足の感がある。」というように使います。

杉田さん 僕の力からすれば、部長のほうがおもしろいという意味になるのですか。

原さん そうですね。しかし、調査によれば、反対の意味で誤って使われることが多いようです。

野村さん つまり、副部長の役目は杉田君では力不足だという意味ですか。

原さん はい。言葉としては似ていますが、「力不足」や「力量不足」では、足りないのは（ A ）だということですが、『役不足』では（ B ）が足りない、軽すぎることなので、全く違う意味になります。

2

杉田さん このグラフを見ると、「役不足」の言葉の意味を「力量に対して役目が重すぎる」と答えた人と「力量に対して役目が軽すぎる」と答えた人の、年代による割合が分かります。

林さん 十六〜十九歳の十代は正誤の割合が同じですが、年代が上がると正しい意味を知っている人とそうでない人の割合に開きが出てきています。特に五十代は、他の年代に比べてその開きが大きいです。

3

原さん 次に、別の年のグラフを見てみましょう。こちらの結果も、十代の正誤の割合は同じです。二十代、四十代もあまり差がありません。三十代で正しい意味を答えている人と、そうでない人の差は一五・二パーセント、五十代では一四・九パーセントの差です。

4

野村さん これは、最初に見たものより古いグラフですが、「役不足」の意味を「本人の力量に対して役目が重すぎる」と間違えて答えている人が、どの世代にも多くいます。また、この年は六十歳以上の人の正答率が一番高いですね。

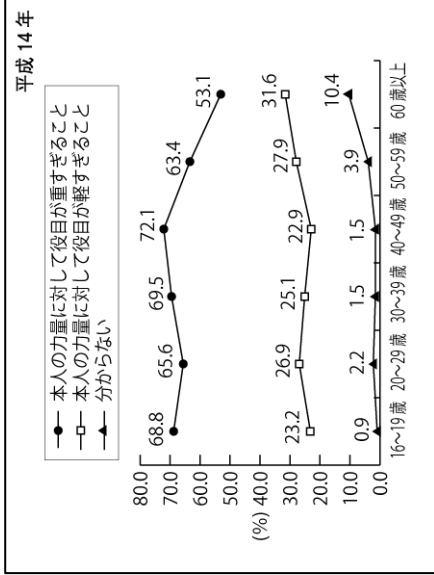
林さん この年の結果が報道などによって広まり、多くの人が本来の意味を知るようになったのかもかもしれません。

原さん しかし、調査を行った年が違っているので、このグラフと最初に見たグラフをそのまま比べることはできません。世代をずらして比べてみれば、十年たつて「役不足」の意味をどうとらえるようになったかが分かります。

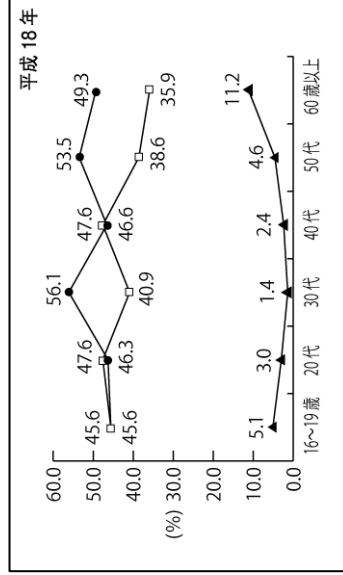
【三ページ】

- 1 1 中の ( ) A、Bに当てはまる言葉を、文中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。
- 2 2〜4で取り上げられているのは、次のア〜ウのどのグラフですか。当てはまるものを一つずつ選び、その記号を書きなさい。

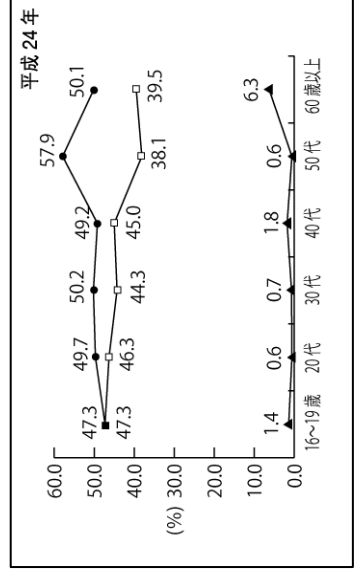
ア



イ



ウ



参考：文化庁「国語に関する世論調査」

- 3 4で原さんが述べた意見について、次のようにまとめました。「 」 a、b、cにそれぞれ当てはまる漢数字を書きなさい。

平成二十四年の調査結果では、三十代の誤答率が「 a 」パーセント、平成十四年の調査結果では二十代の誤答率が「 b 」パーセントであり、十年たつて「役不足」の意味を正しくとらえる人が「 c 」パーセント増えたことが分かる。

- 4 図書委員の原さんは、図書だよりの題字のレタリングを読書好きな林さんをお願いするつもりです。原さんになったつもりで、林さんに仕事を依頼する文を書きなさい。ただし、「役不足」という言葉を必ず使うこと。

シート 3 解答欄

第 学年 組 番 氏名

1 A  B

2

3 a  b  c

4

## シート 3 正答例

1 A 力量 B 役目

2 2 ウ 3 イ 4 ア

3 a 五〇・二 b 六五・六 c 一五・四

4 (例) 林さんには役不足かもしれないけれど、図書だよりの題字のシタリングをお願いします。